

### 宮城県仙南地域における視聴覚メディアの活用例

宮城県（仙南地域広域行政事務組合教育委員会） 黒澤 良

仙南地域広域行政事務組合教育委員会（視聴覚教材センター）が、所有する視聴覚教材は、約2,100本あり、その中の約360本が自作視聴覚教材である。地域の資源を題材にしたこれらの教材を様々な事業に活用している。

**【キーワード】 自作視聴覚教材 シニア 出前講座 保存 継承**

#### 1. 実践のねらい

仙南地域広域行政事務組合教育委員会（視聴覚教材センター）が、所有する視聴覚教材は、約2,100本あり、DVDが約800本、ビデオが660本、16ミリフィルムが約320本、紙芝居が約300巻、パネルシアター・エプロンシアターが約20組ある。

その中には、360本の自作視聴覚教材があり、その多くがDVDである。これらの地域に根ざした教材を、地域の多くの方々にご覧いただきたいと考え、学習機会提供事業と「あずなびあまつり」において活用することとした。

#### 2. 実践・活動の概要

一昨年、教育委員会（視聴覚教材センター）の事務室が仙南芸術文化センター（えずこホール）内に移動し、教育委員会の事務室がえずこホールの事務室と統合された。

以前から、地域の高齢者の方々のパソコン関係講座の開催希望が多かったことから、当教育委員会では、50歳以上の方々を対象とした「シニアにやさしいかんたんビデオ編集講座」を開催した。講座は、6回受講するコースで、パソコンの基礎からビデオ編集までを学ぶ講座で、その中の1回を「自作視聴覚教材」に関するコマと位置付け、今まで制作された自作視聴覚教材の視聴はもとより、実際に制作者を講座の講師として、制作に係る苦労話や教材制作のコツなどをお話していただいた。

また、なかなか講座を受講出来ない地域の方々の為に、出前講座を展開している。講座の内容は、なるべく団体の希望に沿えるように数回打合せを重ねた上で実施するようにしている。

#### 3. 実践の結果と考察

シニア向け講座も出前講座も本年度新たにスタートした事業である。昨今、高齢化が急激に進行し、学習したいという地域の方々の要求に応えるため、開催したものである。

受講者は、定員を超える申し込みがあり、できるだけ対応したいとのことから、開催予定の回数を急遽増やしたところである。

また、出前講座も申し込みが多く、1日のみの開催ではなく、数回に渡っての開催希望が多くなっている。受講者からは、講座を受講するのがおっくうだったが、出前により受講することが出来て、良かったとの声が多い。



講座受講の様子

#### 4. 課題と今後の取り組み

今年度、シニア向け講座と出前講座を開催したが、特に、シニア向け講座の受講者が、この事業を機会に、より地域資源の保存と継承に繋がる活動を継続して頂きたいと思うところである。少しずつではあるが、そのような活動が大きな輪となり、地域の方々の生きがいつくりや地域の活性化、ひいては、次代を担う子供たちへの良きお手本となれば、と、願わずにはられません。なかなか現実的には難しいが、そのような活動に繋がるためにも、私たちは常にアンテナを高くして、情報収集を行い、地域の方々の要望に耳を傾けて、事業を展開していかなければならないと考える。最小の経費で最大の効果を、これは、私たちに課せられた使命ですが、コミュニケーション能力を高め、より柔軟に対応できるスキルアップを図りながら、事業を進めていきたいと思う。

なお、視聴覚メディアを活用した「あずなびあまつり」も今年度、3回目を迎えるので、内容の精査と共に、新しい感覚で考えたものを大いに採用し、反省も踏まえながら、事業展開を図っていききたいと考える。